
冷たい手（ロイエンターール追悼小説）

遠美 見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冷たい手（ロイエンタール追悼小説）

【Nコード】

N0155J

【作者名】

遠美 見

【あらすじ】

いつものファーターロイエンタールのお話です。

(前書き)

8年後の12月16日のお話です。

午後から降り出した雪がうつすらと地面を白くしていた。

すぐにやむだろうとたかをくくっていたが、帰る時刻になってもまだ降っている。

俺は傘が好きではないので、家を出るときに雨が降っていないければまず持たない。まあ、家まで歩いてもこのぐらいなら濡れることもないし、冷気がかえって肌に心地よいだろうと、コートの襟を立てて歩いていった。

「あ、父さまだ!!」

雪の中から小さな影が飛びついてくる。次男のウォルフイだ。

「どうした？　こんなに寒いのに・・・」

「みんなで、父さまをむかえにきたのー!!」

「みんなで?」

見ると、長男のフェリックスと長女のエレノアもいる。それにエルフリーデも。

「どうした風の吹き回しだ?」

「子供たちが雪を触りたがったのよ。……どうせ傘がないと思っただから、つ・い・でに迎えに来てあげたの」

「それは、どうも……」この妻特有の意地っ張りなセリフにももう慣れた。

子供たちは両手が空くように、フードのついたオーバーを着て走り回っている。ようやく歩くようになったエレノアも兄たちと一

緒に降り続く雪にはしゃいで、笑う。

自分にこんな幸せが来るなんて昔は考えたこともなかった。

いや、考えようとしなかっただけなのか……。

傘を受け取る時、エルフリーデが手袋をしていないのに気づいた。おまえ、手袋は？と訊くと、

「3人を身支度するの、大変なの！！」という。子供を着込ませるのに忙しくて自分のことはいついつい忘れてしまっただな。

飯のときも、熱いだの、辛いだの、嫌いだの、こぼしただの、親はどこに食べ物が入ったんだかわからないことがよくある。

ほら、と俺は自分がしていた手袋をはずして渡した。

エルフリーデは、いいわよ・・・と断ったが、無理にはめさせた。

あのととき、血を失って冷たくなった俺の手を温めてくれたおまえの手が、冷たく凍えているのが許せなかったから。

END E

(後書き)

ロイ追悼・・・といいつつうちではロイ様生きてますからね。

久しぶりに若いときの二人を書こうとも思ったのですが、ファーターロイの書きすぎで書き方を忘れていたことがこのたび判明しました。

もう私、とことんこの路線で行こうと思います・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0155j/>

冷たい手（ロイエンタール追悼小説）

2010年10月15日23時35分発行